

コンサルテーション事業報告

事業の名称	学習障害支援事業	事業代表者	川崎 聡大
対象	学習面やコミュニケーション、発達に課題を抱える就学前児・小中学生		
目的	<p>【目的】</p> <p>言語、学習、コミュニケーションに関する相談援助を通じて地域に研究知見を還元するとともに、目の前の生活をことばやコミュニケーションといった観点から少しでも有意義にしていくための方策について当事者や学校関係者、保護者たちとともに検討を深める。</p>		
実施日 実施回数	相談事例とその内容により概ね 1/W～1/2W（相談内容によって回数は異なる）実施概要に詳細を記載する		
実施場所	心理演習室（5F）		
主なスタッフ	<p>川崎聡大</p> <p>小泉 亮（東北大学大学教育学部）</p> <p>小野寺百合子（川崎研究室事務補佐員）</p>		
スタッフの 活動内容 および 実施実績概要	<p>学習面、特に読み書きに困難を示す児童・生徒・学生に対して、その読み書き困難の背景を掘り下げ、個々の認知特性に応じた①読み書きに対する直接的な指導・支援②学校生活全般のコンサルテーション③二次障害軽減のための方策の検討等、支援を実践した。当該児童・生徒に対するアプローチだけでなく在籍する小学校や教員への助言、個別指導計画、個別教育支援計画策定への助言指導も実施した。</p> <p>学生スタッフは教員指導の下、スタッフ以下の内容に関わった</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 読み書き困難生徒に対する ICT を活用した授業場面への支援（学生） ② 読みや書きの指導に関する指導計画の立案と教材作成（全員） ③ 指導や検査の合間の対象児童へのかかわり（全員） 		

	<p>【実施概要】*個人が特定できる可能性があるため包括的に記載します</p> <p>本年度の相談傾向</p> <p>本年度はコロナ下であったため、オンライン相談では昨年度の相談事例のフォローアップ、新規予約の相談、コンサルテーションといったもので継続3名、新規相談2件を受けた。10月以降感染予防対策を講じつつ対面指導を段階的に再開した。本年度は件数自体が昨年に比し減少したが、一方でオンラインでの教育相談（合理的配慮の検討やディスレクシア事例への直接指導）の成果を実感した年であり、今後の展開に新たな可能性を見出した年度であったともいえる。</p> <p>対面再開後の実施件数 2021年度</p> <p>*8月まで8系</p> <p>9月 5件（オンライン並行）</p> <p>10月 8件（オンライン並行）</p> <p>11月 8件（オンライン並行）</p> <p>12月 5件（オンライン並行）</p> <p>1月 6件</p> <p>対面15件、オンライン2件 合計40件</p> <p>なお1月中旬よりオミクロン蔓延に伴い再び対面相談は停止している</p>
--	--

—